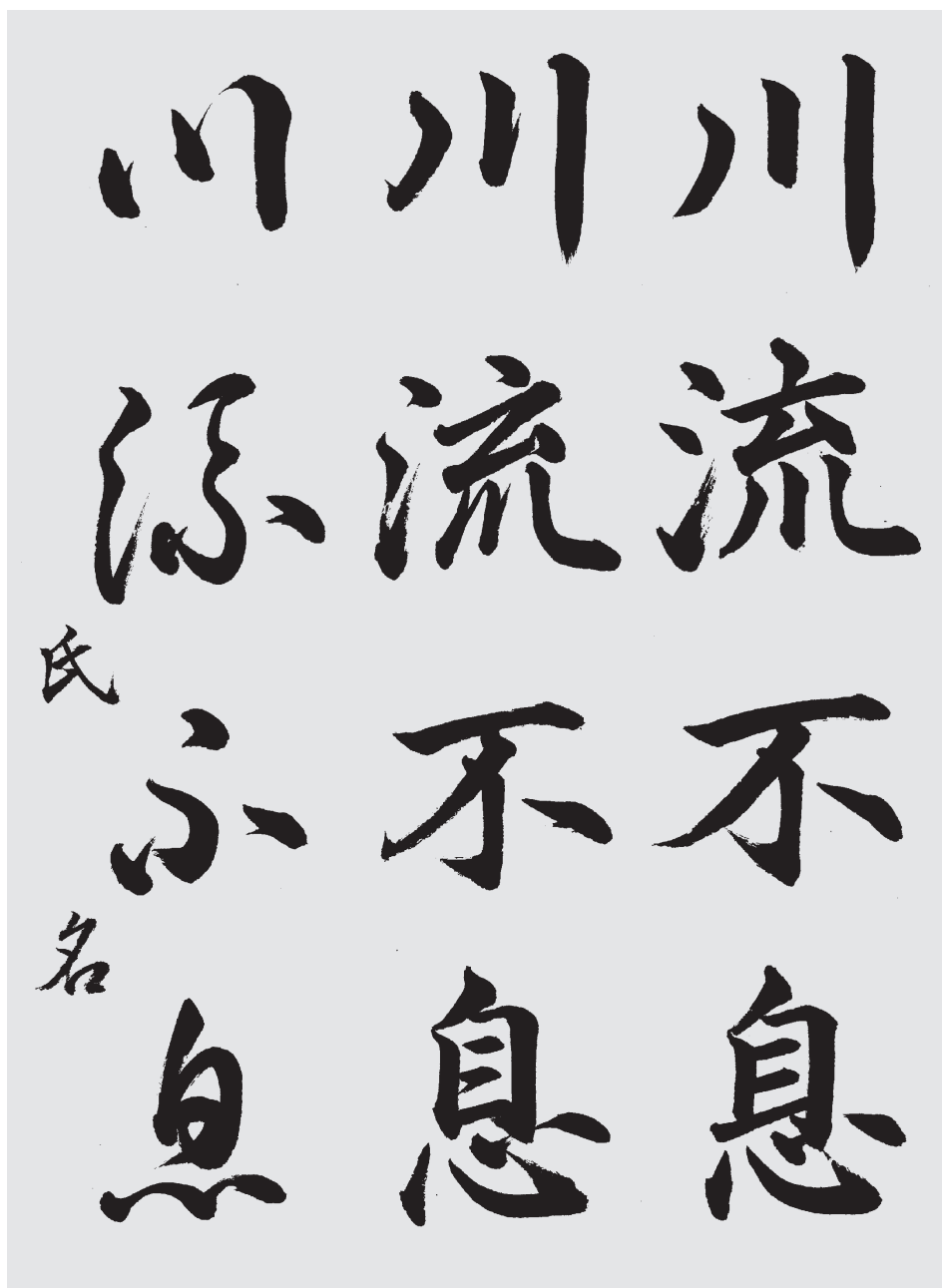


三体千字文を書く (69)

締切り 九月十八日 (必着)



回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

川流不息

淵澄取暎

川は流れて、止まることなく、淵は澄んで、ものの影をうつす。

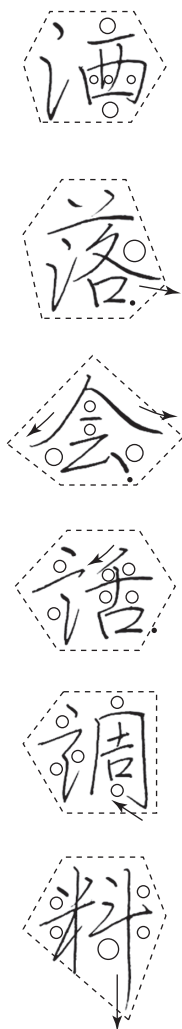
一般部規定課題

締切り 9月18日(必着)

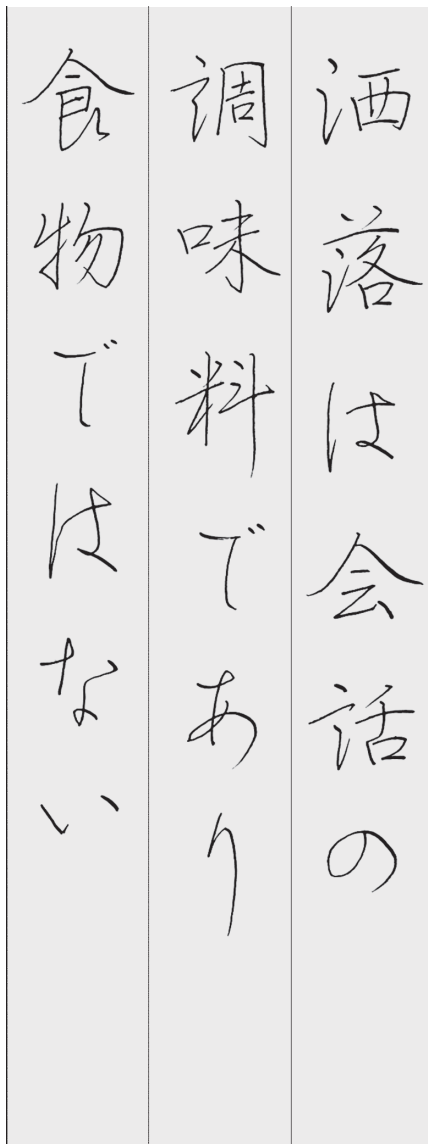
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

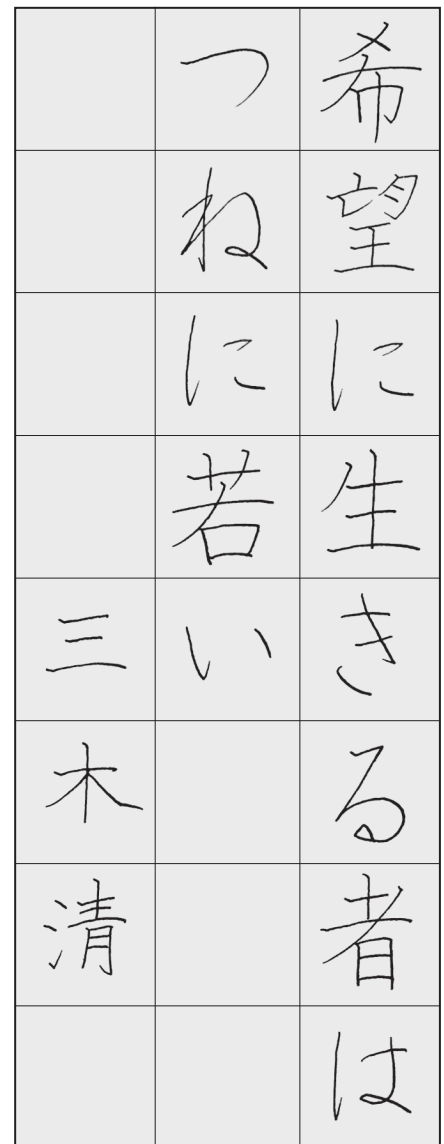
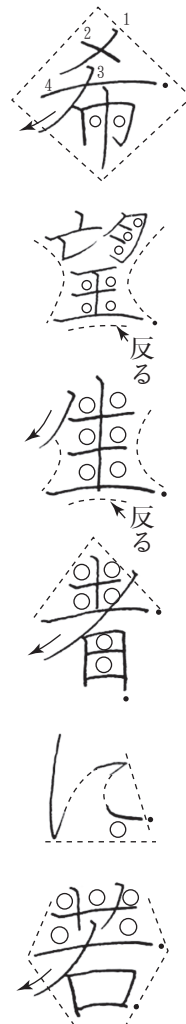


お 郷 翠 光 書
尾 郷 翠 光

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



ふる た ずい えん 書
古 田 瑞 苑

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会級位用紙

◆10月課題予告(楷書)
仰ぎて天に愧じず
俯して人に忤じず
孟子
▼教範・書範Ⅱ行草または草書
▼師範Ⅱ行書

★洒落は…(書体Ⅱ行書)
ハズリット(一七七八～一八三〇)
イギリスの評論家・随筆家
会話を引き立てる洒落は楽しいです
が、洒落のための洒落はウエイトを置
きすぎると、相手は不快に感じるこ
とでしょう。ようするに洒落にも節度
が必要です。
ハズリットは、洞察力に富んでいる
評論家として知られています。が、食
物と調味料とでうまく表現された言葉
です。

◆10月課題予告(行書)
誇りの心は
総ての人の
生命である

★希望に…(書体Ⅱ楷書)
三木 清(一八九七～一九四五)
昭和時代の哲学者
このことばの出ている「哲学ノ
ト」は、昭和十六年の公刊で、日本は
太平洋戦争への道をたどっており、彼
のとするヒューマニズムの立場も危険思
想と見なされる状況にありました。し
かし彼はあえて希望を持つことにつと
めて、若々しい精神で著作活動などを
行ったのであります。

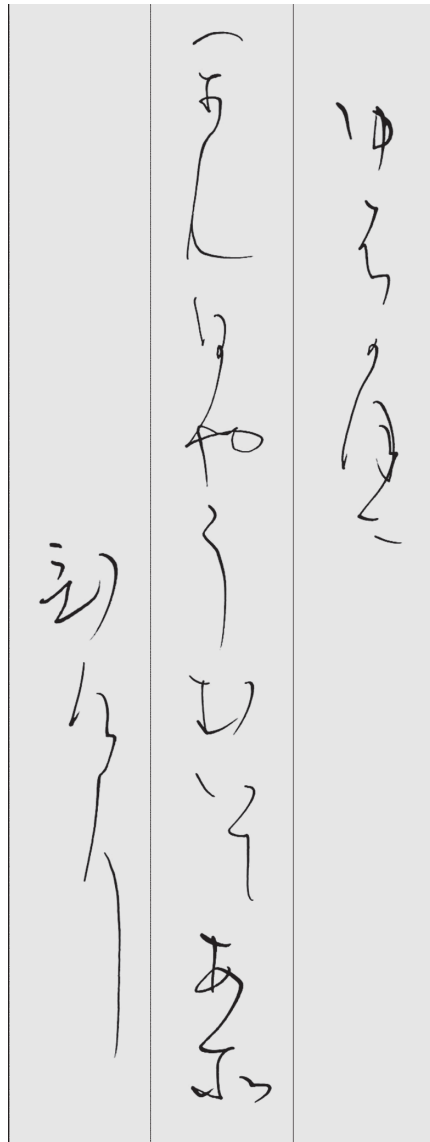
一般部かな課題

締切り 9月18日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

夕がほに
かんぴやうむいて
あそびけり

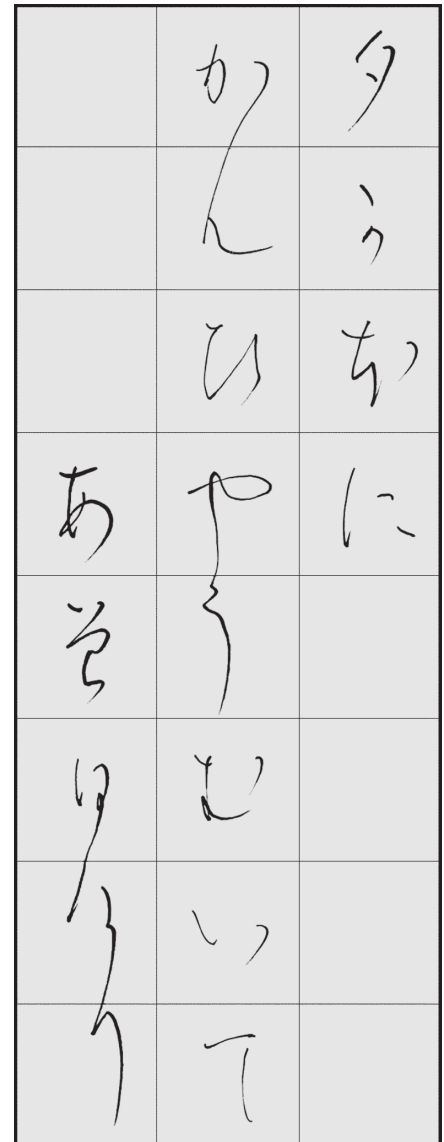


石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

夕がほに
かんぴやうむいて
あそびけり



石垣秀華書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

〔古筆参考〕

本 保 閑 曾 飛
あそびけり
あそびけり
あそびけり
あそびけり
あそびけり

◆10月課題予告

東にしあはれさひとつ秋の風

夕顔にかんぴやうむいてあそびけり
(芭蕉句集より)

〔出典〕元禄七年。六月廿四日付杉風宛書簡に出る。有磯海(四山集)

〔作者〕松尾芭蕉。正保元年。(一六四四)〜元禄七年(二六九四)俳人。名は宗房、別名は桃青・風羅坊。

〔大意〕夕顔の咲く下で、その実の皮を手すさびに剥くということを面白く思った。

○かんぴやう——干瓢。夕顔の実。皮を長く剥いて干す。

〔解説〕一の句と三の句で筆圧を加えた。変体がなや連綿のところは、よく理解して流れよく、リズムに乗って書くこと。

締切り
九月十八日（必着）

大迫秀湖書

おしなべてものを思はぬ人にさへ
奈毛於も者耳遍
ころ越農八可勢
心をつくる秋のはつかぜ

〔歌意〕 総じて、物を思い悩まぬ人にさえ、もの
あわれの心を起こさせる秋の初風よ。

〔出典〕 新古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔古筆参考〕

於
於
於
於

者は
者
者
者
者

遍へ
通
通
通
通

越を
城
級
城
城

農の
花
草
草
草
草

勢せ
将
将
将
将

◆10月課題予告

[illegible]

締切り 9 月 18 日(必着)

いきおい秋めいて、ともすれば
朝晩は肌寒さを感じるようになって
まいりました。いよいよ来月は、
大書心会の一大行事のペン字展が
開催されます。多数の力作出品を
今から楽しみにしています。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本はボールペン使用

いきおい秋めいて、ともすれば
朝晩は肌寒さを感じるようになって
まいりました。いよいよ来月は、
大書心会の一大行事のペン字展が
開催されます。多数の力作出品を
今から楽しみにしています。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

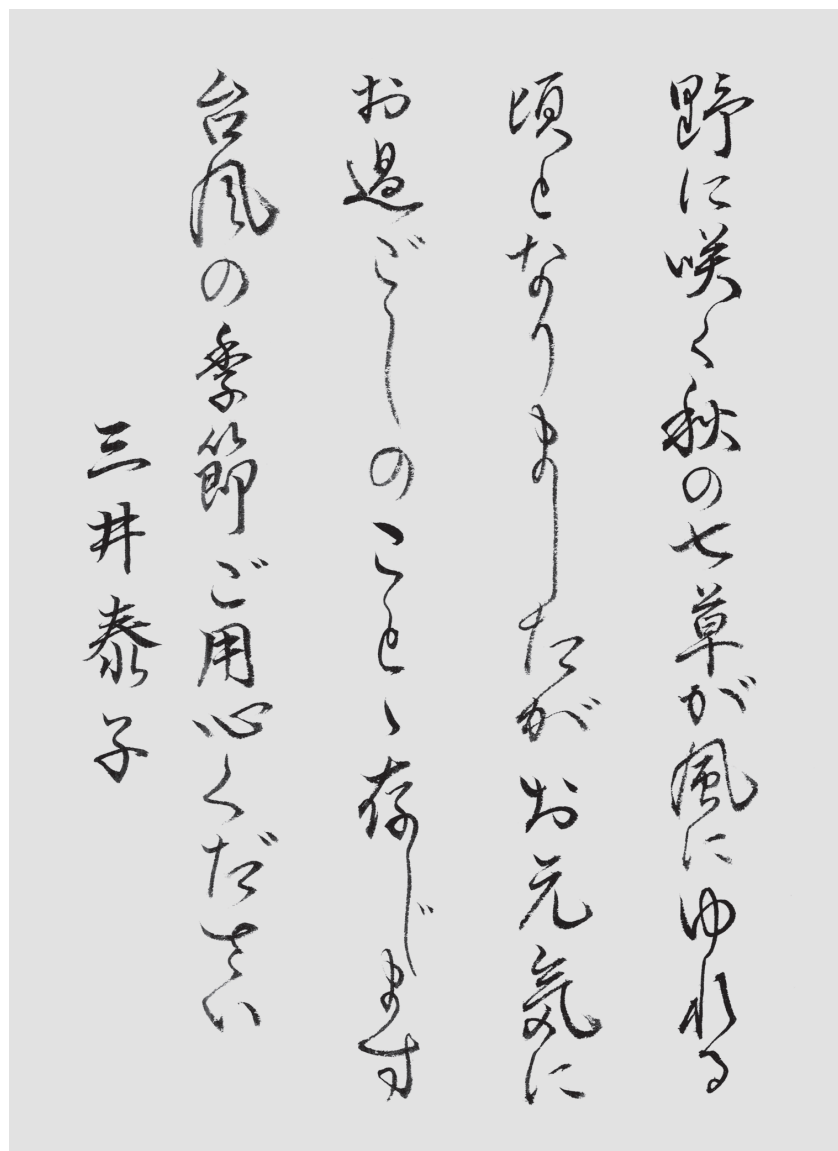
胡麻はアフリカ原産で、古来栄養に
富む万能食品として愛されている。

鳥 取 県 東 伯 郡 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 九月十八日(必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

新井 龍峰 書

鶴聲秋更高

許渾

〔条幅解説〕

今月は五文字です。書き出しの鶴は大きくなりがちですが、大きくならないよう。二文字目の聲は、大きくゆったりと。三文字目の秋は横に平べったく。四文字目の更は正三角形を意識します。五文字目の高は、上の四文字を受けておさまりよくなるようにと運筆したつもりですが……。

野に咲く秋の七草が風にゆれる

頃となりましたが お元気に

お過ごしのことゝ存じます

台風の季節ご用心ください

(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕 鶴は九天に鳴き秋には更に高く聞こえる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(楷書)

新
月
始
澄
秋

清
水
翠
芳
書

しんげつはじめてあきにあき
新月始澄秋

〔大意〕秋に入りて三日月が始めてきらきらと鎌の如くに見える。

〔解説〕

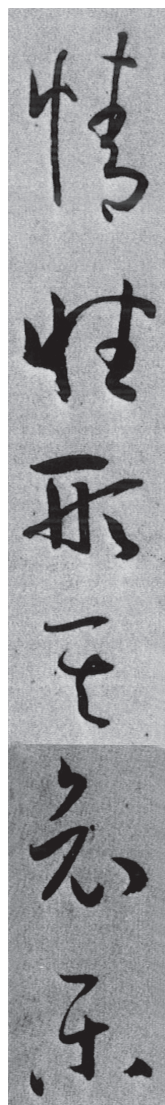
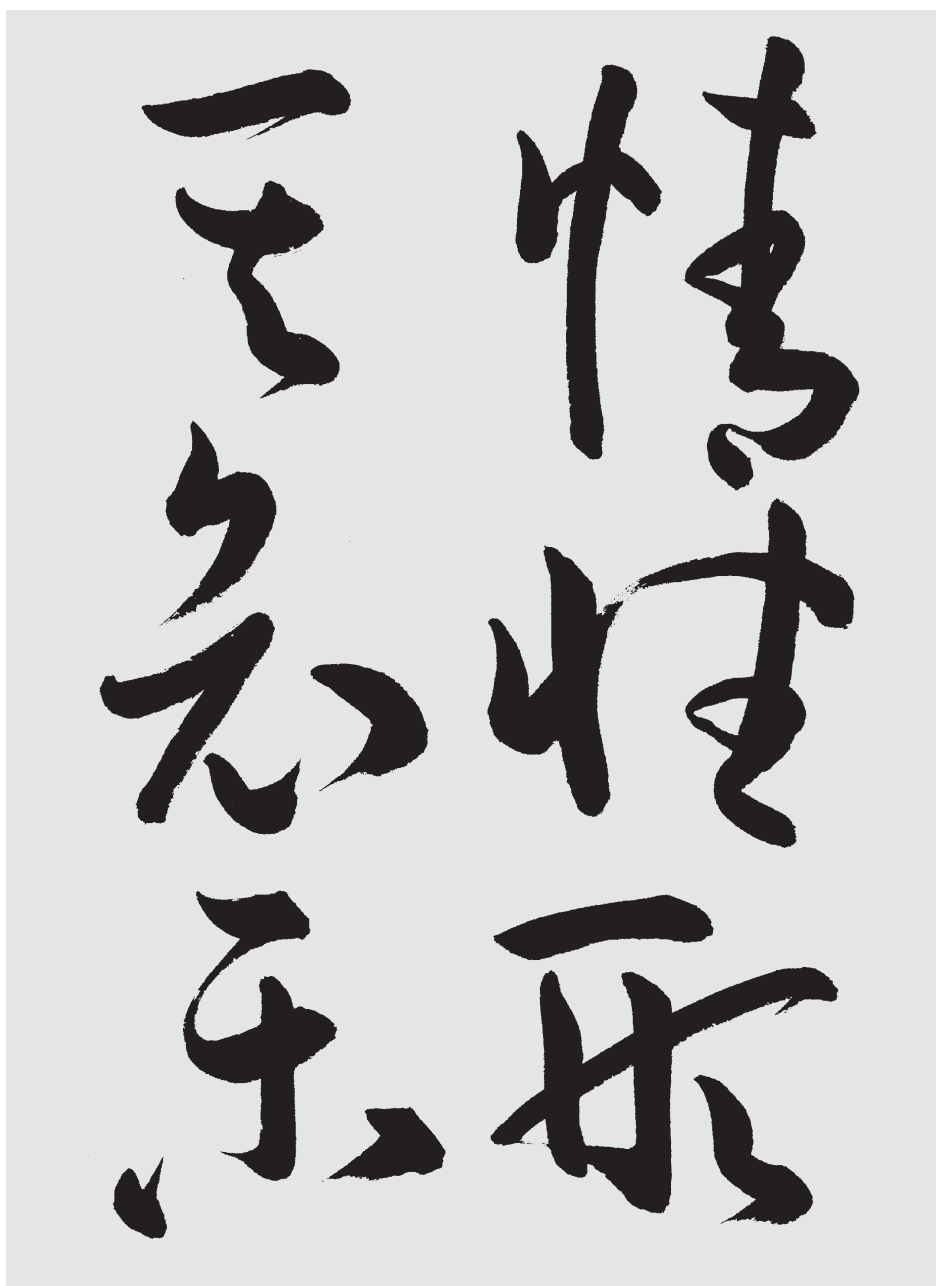
新
月
始
澄
秋

◆10月課題予告(行書)

秋屋葉
聲中

準初段から師範まで

須田一葉臨



情
性
形
其
哀
樂

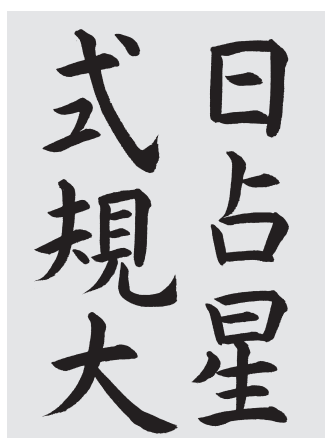
〔出典〕書譜(六八七)
〔筆者〕孫過庭(六四八?~七〇三?)
〔読み〕(故に其の)情性を達し、
其の哀樂を形す(可し。)

〔解説〕



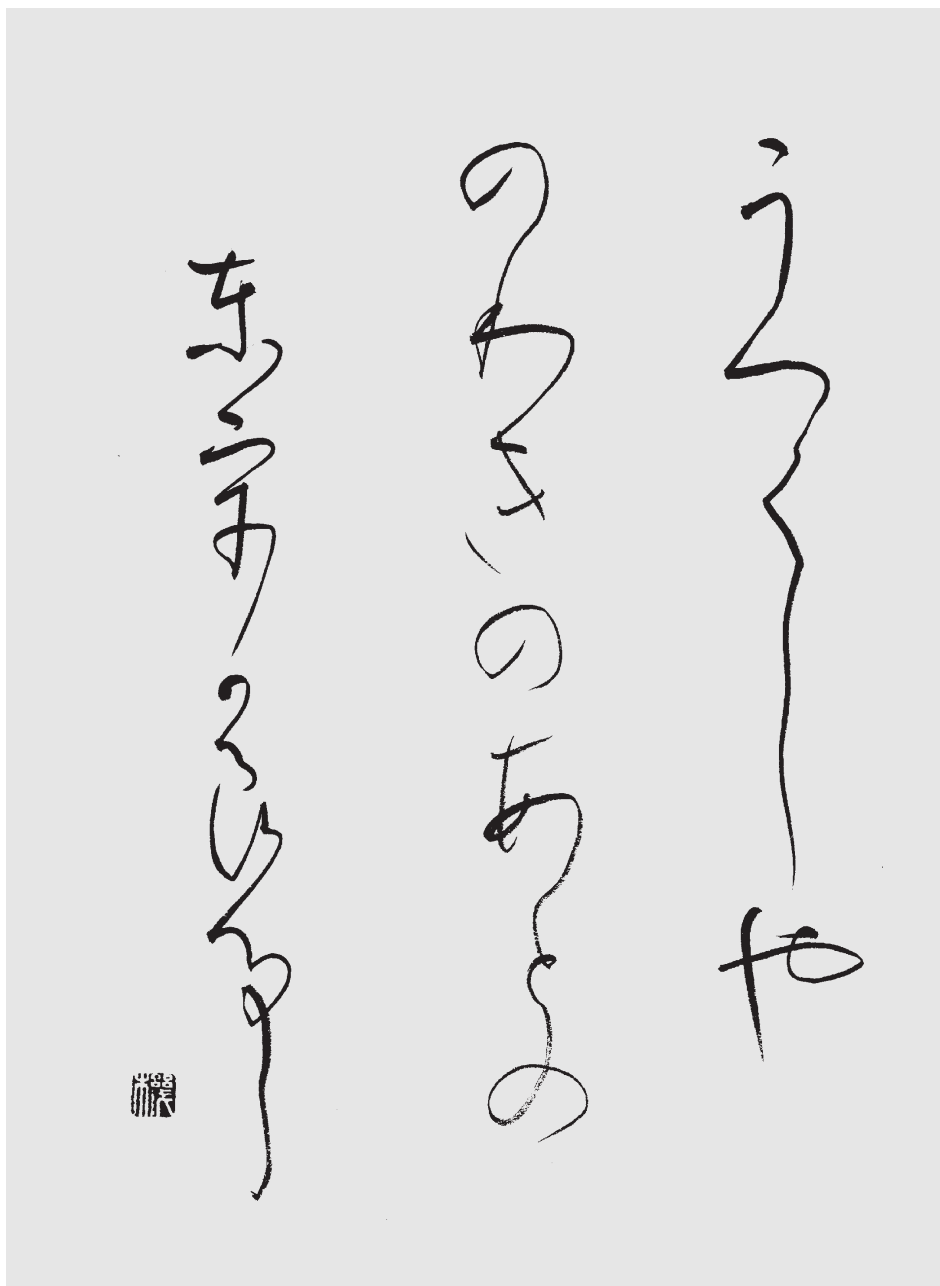
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆10月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書



うつくしや野分のあとのとうがらし
東字可良事
与謝蕪村

〔句意〕はげしく吹きすさんだ野分のあとの畑に、とうがらしばかりが赤く色あざやかに見られて美しい、の意。

〔古筆参考〕

東と 东 东 东 东

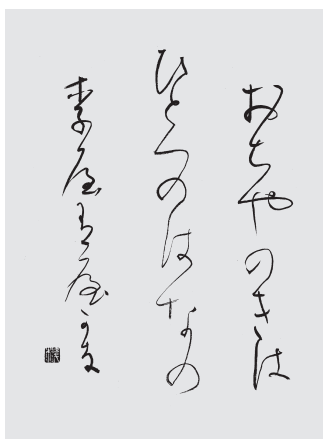
宇う 宇 宇 宇 宇

可か 可 可 可 可

良ら 良 良 良 良

事し 事 事 事 事

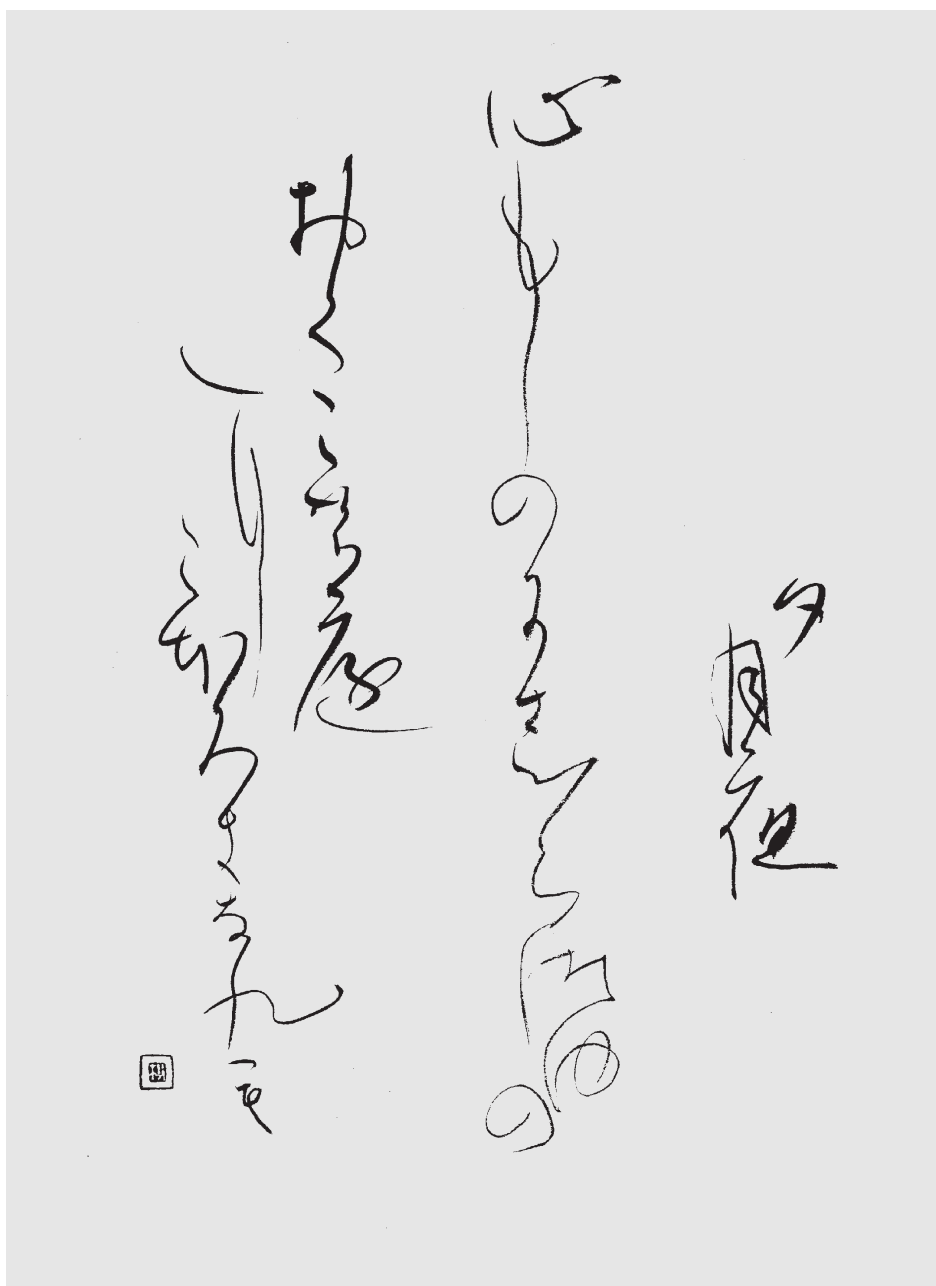
◆10月課題予告



お茶の木は一つの花の良夜かな

準初段から師範まで

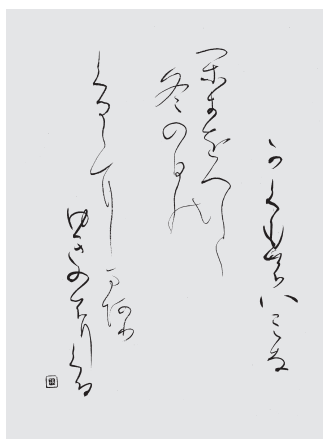
浅井機山先生書



夕月夜心もしのに白露の
尔志ら徒ゆ 農耳本支奈九毛
 おくこの庭にこほろぎ鳴くも
湯原王

〔歌意〕 夕月の出ている夜に、心もしとりと白露
 のおりているこの庭に、こほろぎが鳴いて
 いる。

〔古筆参考〕

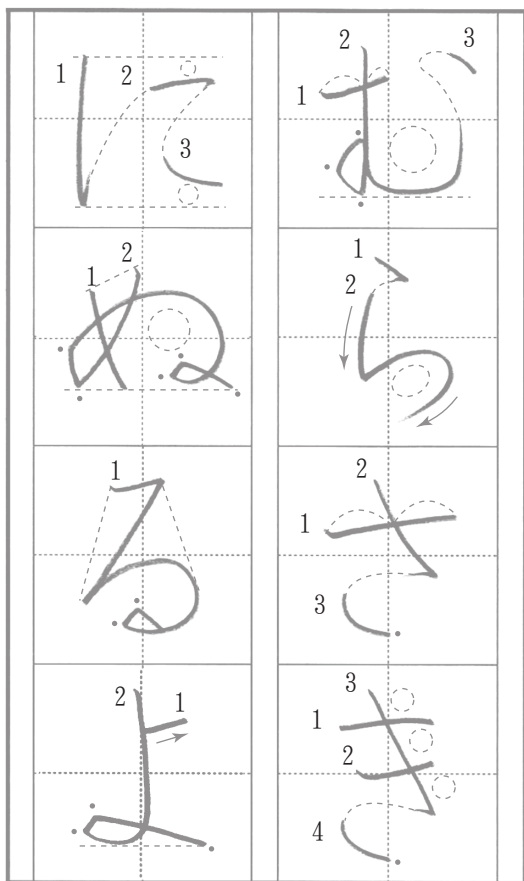


◆10月課題予告

尔に 志し 徒つ 農の 耳に 奈な
 夕月夜心もしのに白露の
 おくこの庭にこほろぎ鳴くも

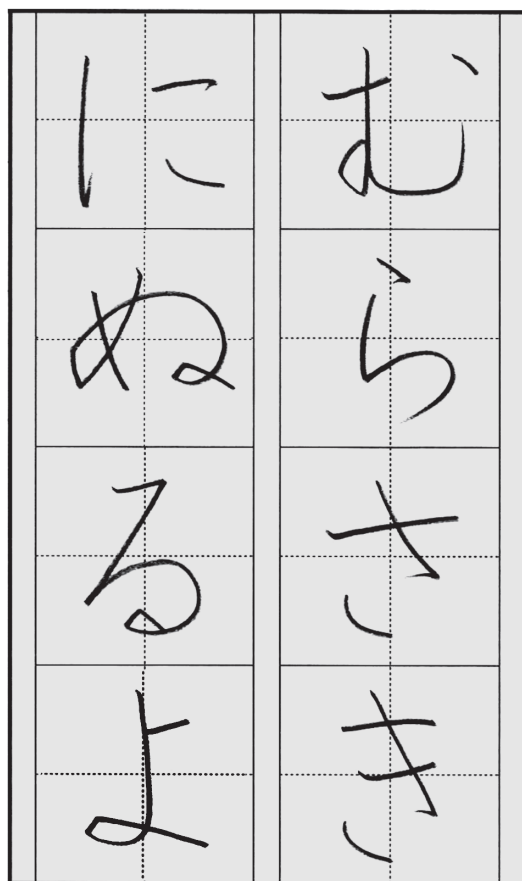
書く物はみな書きをへて冬の日の
 暮るるに間あり雪の降りくる

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



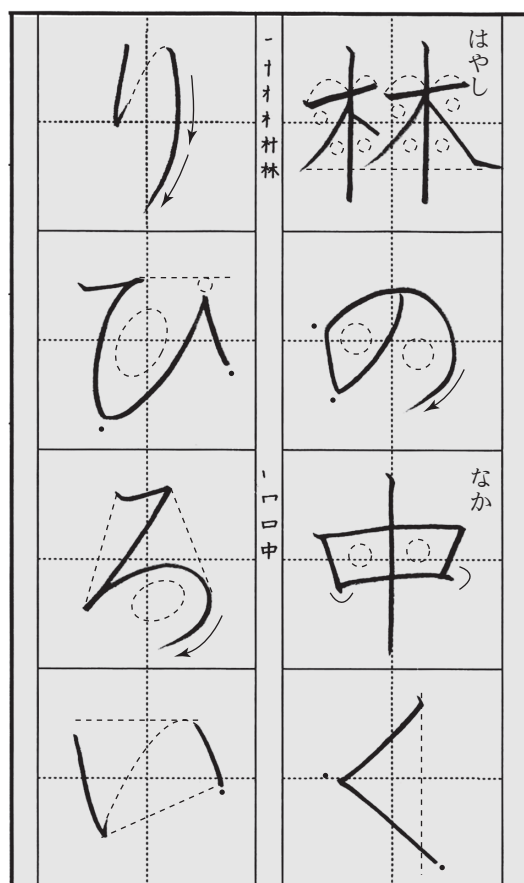
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



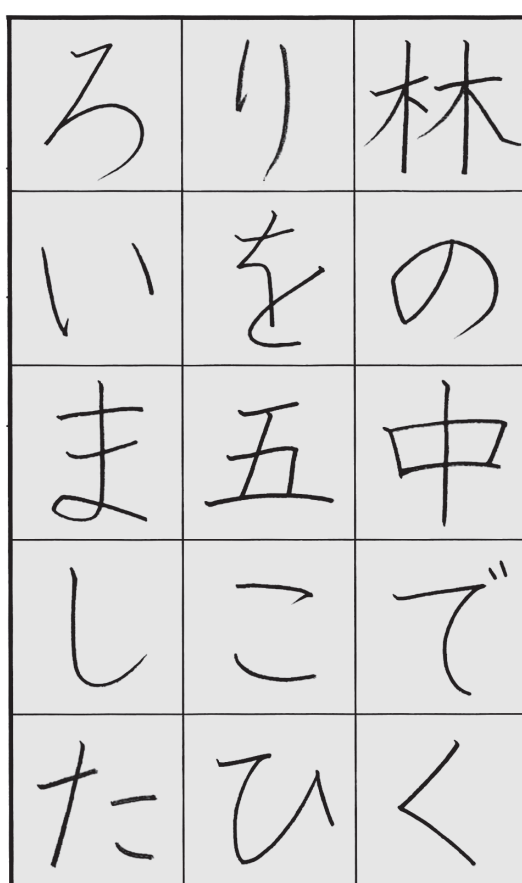
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)

は	早
を	口
言	こ
う	と

新入〜1級

を	早	声
三	口	に
回	こ	出
言	と	し
う	ば	て

準初段以上

小二年

準初段以上

下	秋
運	は
動	れ
会	の

新入〜1級

気	で	秋
に	み	は
運	ん	れ
動	な	の
会	元	下

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

調 チヨウ	世 セ
味 ミ	界 カイ
料 リョウ	中 ジュウ
か	の

新入〜1級

置	の	家
い	調	に
て	味	世
あ	料	界
る	か	中

小四年
準初段以上

然 ネン	氷 スイ
河 カ	質 シツ
川 セン	良 ヨ
	天 テン

解説(よく見て習いましょう)

か	天	水
す	然	質
む	の	も
河	あ	良
川	ゆ	く

小五年
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上
前 嶋 玉 華 書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

糸糸糸糸糸糸	絶 ^{ゼツ}	城 ^{しろ}
くくくくくく	好 ^{コウ}	天 ^{テン}
四四四四四四	景 ^ケ	守 ^{シュ}
ノノノノノノ	色 ^{シキ}	閣 ^{カク}

糸糸糸糸糸糸 絶
くくくくくく 好
四四四四四四 景
ノノノノノノ 色

城^{しろ}
天^{テン}
守^{シュ}
閣^{カク}

マカガカ城城
一ニチ天
ハハハ守守
門門門閣閣

解説(よく見て習いましょう)

※景色Ⅱ単語としてこのように読みます。

絶	閣	お
好	か	城
の	ら	の
景	見	天
色	る	守

小六年

(全員)

す	養	温
撰	分	野
取	を	菜
す	逃	で
る	さ	栄

中二・三年

(行書)

な	ぶ	店
輸	力	の
入	う	棚
雑	フ	に
貨	ル	並

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題

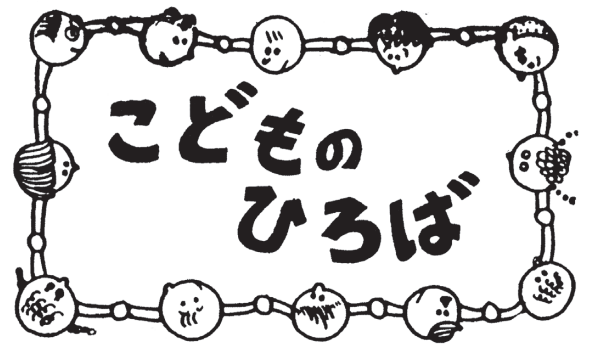
くま かい か よ
熊 谷 佳 代 書

※今日＝単語としてこのように読みます。

今	母	ま	大	夜
日	と	ん	き	空
は	見	ま	く	に
十	上	る	て	か
五	げ	な	美	が
夜	る	月	し	や
		を	い	く



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月18日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

いし かわ み な よ
石 河 美奈世 書

季	夏	夕	校	秋
節	の	焼	庭	の
が	名	け	を	気
動	残	空	染	配
く	り		め	と
	を		る	
	映			
	し			

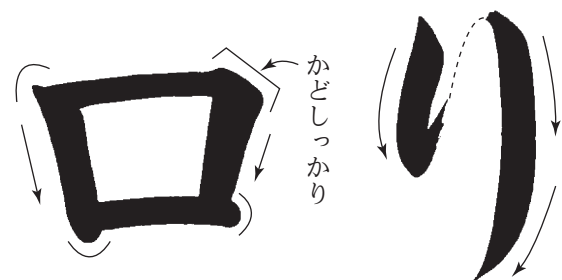


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。







小三、小五年
柴しほ
田た
桃とう
花か
書

中二・三
學 養
撰 取

小六／中二・三年
永谷恵子書

小六
絶 見
景 る

※行書は、気脈を大切にしよう。

貨 養 撰

絶 景 雑

中一
輸 入
雑 貨